

革命的芸術家同盟 アッピール!!

6.19 芸術学部ストライキ決行の日より、60日間を先進的かつ
戦斗的に斗ってきた我が革命的芸術家同盟より、労・学・の固い
連帯の下に開催された今日の大集会に対し、斗う来意表明と
連帯の挨拶を送りたい。

今日芸術家の自覚に徹しえない芸術家の腐敗、墮落は、芸術の持つ陋弊へ見事に
落ち込んだ形で映画人、小説作家、詩人などの「芸術家的政治参加」が流行
している。我々の斗いに対しても「映画反戦」を名乗る団体の支援があった。
映画人で組織される団体に「反戦」という政治スローガンが掲げられるとは
奇妙な現象である。「反戦」を媒介に「市民映画運動」でも結成しよう
あるのか。ならばとことんポチアールの発想であり、反左翼的性格を帯びて
るを得ないだろう。

今更去うまでもなく「反戦」は政治スローガンでしかない。映画はあくまで
「映画」でしかない。「映画反戦」という「政治」と「芸術」をなげきにする「発想」自体誤謬
なのだ。「反戦」は「ベ平連」などというポチアールの市民運動以来、マスコミに乗っかり
流行語と化している。かの自民党でさえ「反戦」を唱えている。

「反戦」は究極市民運動か市民運動に毛のハエたものにすぎないし、このような代物
は革命的でもなんでもないのだ。映画人が「反戦」を唱えねばならないとするな
らば彼らの情況分析の逆転と映画人自体の本質問題を捨象したところでの
醜悪な発想であると同時に、映画人を召む芸術労働者を解放できない革命運
動自体の低迷を意味する。

映画人が「反戦」スローガンの下に政治的に結集して何をしようとするのか。政治的
に結集する限りにおいて徹底的な「プロ映画」を制作するのか。さもなくば
「政治運動」と「映画制作」のどちらも半端にする喜劇的運動体にならざるを得ない。
いかなる「政治的」な「課題」でも「映画」(芸術)で追究する事は「反戦」スローガン
とするような低次元の発想しか持ちあわせない団体が耐えきれぬようなやさしい代
物ではない。

我々があえて「芸術家」のその上に「革命的」をつぎ木しなければならなかったのは、自
称「芸術家」の腐敗と墮落が現在我々の目にあまりにもつきすぎるからだ。

これは自称「芸術家」に対するなぐり込みである。

現在我々のタイフニックに展開する日大斗争の真只中で可能なかぎり「詩」、
「戯曲」、「シリオ」等々の表現行為を持續している。

この成果をいすれ我々は誇らかに公開する時期が来よう。

我々は今後より先進的・戦斗的に「日大斗争」を斗っていきたい!